

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】
～いちご研修会を開催～
〔農業試験場いちごほ場見学〕

令和7年11月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご研修会を開催～	
2. 和海地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施	
3. 下津町農業士会の「みかん出前授業」	
4. 紀美野町農林商工まつりで農産物品評会が開催される	
II 那賀振興局	3-4
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～いちごの展示圃でモニタリング機器活用研修会を開催～	
2. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催	
3. 各農業者団体が紀の川市産業まつり・食育フェアに出展	
III 伊都振興局	5
1. 伊都地方農業振興協議会が橋本市と九度山町でかきの消費拡大を PR	
2. クビアカツヤカミキリ掘り取り現地研修会を開催	
IV 有田振興局	6
1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）が振興局長を表敬訪問	
2. クビアカツヤカミキリの第2回定点調査を実施	
V 日高振興局	7-8
1. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～「南高」摘心＋カットバック処理樹のせん定講習会を開催～	
2. 日高地方農業士会が地域リーダー研修会を開催	
3. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催	
4. 日高地方農業士会女性部会が「現地研修会 in 由良町」を開催	
VI 西牟婁振興局	9-11
重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】	
1-1. ～摘心＋カットバック処理樹のせん定講習会の開催～	
1-2. ～カットバック処理請負グループ活動を支援～	
2. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会リーダー研修会を開催	
3. 女性農業者セミナーの開催	

1. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施
2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が即売会を開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご研修会を開催～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるための普及活動を行っている。

今年も夏期の高温が続いたことから、育苗時期の炭そ病発生や花芽分化の遅れに苦勞された生産者が多かった。そこで、炭そ病対策として有効な親株確保の方法や花芽分化に関する技術などについて学び、安定した経営を行うためのヒントを得てもらうため、当課は11月21日に農業試験場にていちご研修会を開催し、生産者9名が出席した。

農業試験場の小川主任研究員から「秋ランナーからの採苗について」と「CO₂の効果的な施用について」、田中主査研究員から「いちごの花芽分化促進・安定技術」をそれぞれ講演いただいた。生産者から「冬の低温期は炭そ病の感染リスクが下がるとのことだが具体的に何度以下か」、「CO₂施用を安価に導入運用する方法はあるか」などの質問があり、活発な質疑応答が行われた。

その後、農業試験場環境部職員も加わって皆で意見交換を行い、最後に農業試験場のいちごほ場を見学した。

今回の研修を、生産者間で情報共有して、今後の栽培に活かしてもらえることを期待したい。



講演



農業試験場いちごほ場見学

2. 和海地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施

11月14日、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：奥 博子氏）は、地産地消についての知見をより広げるため、紀美野町にある「キッチンこもれび」でリーダー研修会を開催し、会員15名が出席した。

地元野菜を使った季節により変化や工夫を加えている惣菜（入れ替わりで30種類、提供は15種類程度）をバイキング形式で試食しながら、会員同士の交流を深めた。

交流会・試食の後、キッチンこもれび店主 西川登紀子氏に「地産地消やお店を始めたきっかけ」と題して、ここで店を始めた理由や、地元の農家さんとの交流、地元の野菜を使って献立を考えられることの強みなどの講話をいただいた。「地元の人とのネットワーク（つながり）を大事にしているからこそ、このお店はまだまだ続いていく自信がある。今後地域で農業されている方に貢献していきたいと考えている」と話された。

会員から「食材の生かし方や料理の新たな工夫の仕方を知ることができ、今後の加工品開発の参考になった」との声があった。



講話の様子

3. 下津町農業士会の「みかん出前授業」

下津町農業士会（会長：上森培弘氏）は、将来を担う子どもたちに下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力を学んでもらうことを目的として、毎年、地元の下津第二中学校で出前授業を行っている。

今年は11月10日に開催され、2年生29名が体育館に集合し、農業水産振興課のスライド説明や農業士との質疑応答を通じて、みかんづくりや産地に関する知識を深めた。みかん産地の中学生といっても、今では農家の子弟はほとんどいないため、普段見ている景色が世界農業遺産に認定されていることや、地元が世界に誇る産地であることに驚いた様子だった。

農業士がおいしいみかんの見分け方を説明すると、生徒たちは理解を深めたようで、その後の試食で大いに盛り上がった。また、グループ討議ではみかんの消費拡大や農業者の確保、下津みかんのPRについて熱心に話し合った。

感想文では「自分の町のいいところを世界に認めてもらえていることがうれしい」、「この和歌山のみかんを多くの人に知ってもらいたい」、「グループワークで友達と楽しく考えられた」など、地域やみかんの魅力、共同作業について理解を示す感想があった。今回の授業を通して、みかんをきっかけに心の豊かさが育まれ、生徒たちが将来産地を支える人材となっていくことを期待する。



みかんと世界農業遺産について説明



グループ討議結果を発表

4. 紀美野町農林商工まつりで農産物品評会が開催される

11月23日、紀美野町文化センター木の温もり広場において第20回紀美野町農林商工まつりが開催された。

まつり前日に農産物品評会が行われ、審査員として農業水産振興課から岩橋普及指導員と池谷技師の2名が、JAわかやま紀美野町営農生活センター職員とともに、出品数107点の中から品目ごとにそれぞれの特性を踏まえながら、品質、大きさ、そろい等を基準に審査し、14の賞を選出した。海草振興局長賞には古田真敏氏の太豊柿が選ばれた。

本年も夏期の高温や、サルの群れが出没したものの、出品数は例年並、高品質なものばかりで、まつり当日に行われた入札及び即売会は盛況であった。

今年は20回目の節目に当たり、新たなステージイベントが開催されるなど昨年以上に活気にあふれた。



品評会



品評会講評

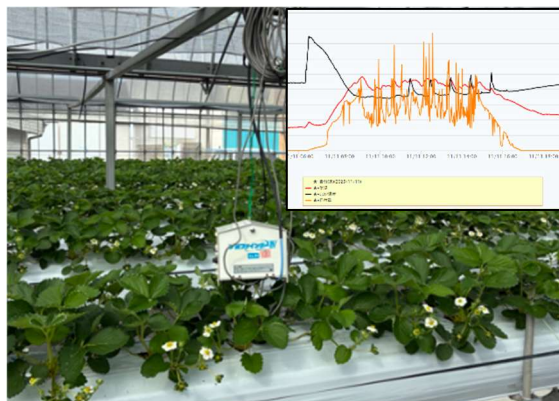
Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～いちごの展示ほでモニタリング機器活用研修会を開催～

那賀地域では、いちごの新規就農者の多くはハウスの環境制御に興味を持っているが、これまでは制御の指針となる展示ほやマニュアルがなく、使いこなせるかどうかという不安から導入に踏み出せていなかった。そこで、那賀振興局では、令和6年度からいちごの新規就農者と研修生受入農家のほ場にモニタリング機器を導入した展示ほを設置し、「那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）」のメンバーに測定データを共有している。

11月13日、モニタリング機器への理解を深めることを目的に、コミュニティのメンバーを対象に展示ほでの研修会を開催したところ、メンバー11名、関係機関3名の出席があった。

嶋本普及指導員から、モニタリング機器の設置の仕方やクラウド上での測定データの見方について説明し、メンバーの理解度チェックのための演習問題を用意する等の工夫を行った。また、展示ほの園主であり、研修生3名を受け入れている奥 佳樹氏から、栽培管理の説明があった。夜冷処理やCO₂発生器等を駆使したハウスでは、地域で最も早く収穫が始まっており、参加メンバーは目を丸くしながら説明に聞き入っていた。



設置したモニタリング機器と測定データ



奥氏の説明を熱心に聞く参加者

2. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

11月4日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、トヨタ自動車株式会社アグリバイオ事業室現場改善グループの石川新樹氏を講師に迎え、「トヨタ式カイゼンで農業も進化！」と題した研修会を開催し、19名が参加した。本研修会は昨年続き2度目で、今回は、①作業を見える化し、②自家の農作業のやり直しや確認のムダを減らし、③全員で情報を共有できるホワイトボードなどのボード作成のノウハウを学んだ。講義の最後に、石川氏から、ボード作成のコツについて、「作業に携わる者が一緒に考えて作ることが大事、苦労して作るからこそ皆が使ってくれる」と話された。



作成したボードの工夫した点を説明する会員

3. 各農業者団体が紀の川市産業まつり・食育フェアに出展

11月23日に開催された紀の川市産業まつり・食育フェアにおいて、紀の川市農業士会（会長：小川真司氏）、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和氏）、紀の川市4Hクラブ（会長：木村竜二氏）、紀の川市生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）がそれぞれ出展した。

いずれの団体も、市内外から集まる消費者に対して、会員が生産する農産物の販売や活動内容のPRを行った。

紀の川市農業士会は、農産物の重量当てクイズを行い、延べ400名が参加した。参加者にクイズで使用した野菜や果物を活用したレシピや、農業士会の活動内容のPRチラシを配布した。紀の川市環境保全型農業グループは、野菜・果物に関する二択クイズを出題し、多くの来客者が参加した。那賀地方有機農業推進協議会は農産物のほか、会員が生産した有機米やしょうが、大根を使ったおにぎりセットを販売し、有機農業や有機農産物についてPRした。



農産物の重量当てクイズ（紀の川市農業士会）



野菜・果物のクイズ優勝・準優勝者
（紀の川市環境保全型農業グループ）



農産物の販売とPR（紀の川市4Hクラブ）



おにぎりセットと有機農産物のPRを行う会員
（那賀地方有機農業推進協議会）



寄せ植え体験を実施
（紀の川市生活研究グループ連絡協議会）

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方農業振興協議会が橋本市と九度山町でかきの消費拡大をPR

11月15～16日、伊都地方農業振興協議会（伊都振興局、各市町、JAわかやま、NOSA I 北部支所で構成）はサカイキャニングスポーツパーク（橋本市運動公園）で開催された「第19回まつせ・はしもと～柿まつり 2025～」に橋本市生活研究グループ連絡協議会とともに参加し、かきのPRを行った。生活研究グループでは、手作り串こんにゃく、ロール白菜、金山寺みそなど農産加工品を販売し、伊都地方農業振興協議会では、柿料理レシピ集等の配布やパネル展示、カット柿の試食などかきの消費拡大活動を行った。

また同日、道の駅「柿の郷くどやま」で開催された「第17回大収穫祭 IN 九度山」において、地元農業者らがかきを販売する横で伊都地方農業振興協議会がブースを設け、かきの消費拡大活動を行った。

今後も、生で食すだけではなく加工方法をPRすることで、さらなるかきの消費拡大を推進していく。



まつせ・はしもとでの出展の様子

2. クビアカツヤカミキリ掘り取り現地研修会を開催

11月26日、農業水産振興課ではクビアカツヤカミキリの被害拡大防止による産地維持のため、クビアカツヤカミキリ掘り取り現地研修会をかつらぎ町佐野のもも園で開催し、管内農業者や関係者など約90名が参加した。

はじめに、浅井普及指導員から伊都地方におけるクビアカツヤカミキリの被害状況や掘り取り方法の概要について説明した。その後、3班に分かれて掘り取りの実演と、一部、未経験者に幼虫の掘り取りを実際に体験してもらい、適宜質問に答えた。

受講者の中にはクビアカツヤカミキリの幼虫を初めて見た人もおり、「ここまで被害のある樹でも生きているのか」や「掘り取りで使う道具はどこで買えるのか」などの質問があった。

今後も、幼虫の掘り取りにより成虫密度を抑えつつ、樹の温存による産地維持の重要性を生産者に周知し、クビアカツヤカミキリの被害防止拡大に努める。



研修会の様子

Ⅳ 有田振興局

1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）が振興局長を表敬訪問

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会が主催する「田んぼの学校」の校長山崎佳彦氏指導のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでおり、農業水産振興課は、年間を通して技術指導を行っている。11月10日、糸我小学校5年生の代表児童2名が有田振興局長を表敬訪問し、1年間の農業体験の報告を行った。

今回の訪問では、5月から実施した種まきから田植え、アイガモ放鳥、稲刈り、脱穀までの体験および11月2日に有田ふるさとうまいもん祭りで実施したアイガモ米販売について報告があった。児童から「田植えでは泥に足が取られるので、転びそうになり大変だった」、「お米の販売は、開始から2時間で完売し、大人気で嬉しかった」等の感想が述べられ、振興局長へ収穫したお米の贈呈が行われた。

振興局長から「お米のラベルをデザインするところまで自分達で行っており、心がこもっていて素晴らしい商品に仕上がっている。

今後も下級生に伝統が引き継がれ、末永く活動が続くよう応援しています」と感想が述べられた。



児童らの活動報告

2. クビアカツヤカミキリの第2回定点調査を実施

有田振興局管内では、令和6年にクビアカツヤカミキリを確認して以来、果樹園地や公園等で被害樹の発見が相次いでいる。令和7年11月末までの被害樹の累積確認数は、湯浅町で3地点24本、広川町で1地点6本、有田川町で3地点11本となっている。

11月11日から12月2日までの期間で、農業水産振興課と各市町役場、JAの各営農センターによる果樹類の定点調査を実施し、林務課によるサ



調査地点の1つ(金屋)

クラの定点調査と合わせて管内の被害の現状把握を行った。湯浅町で4地点、広川町で6地点、有田川町吉備地区で14地点、金屋地区で22地点を調査し、林務課によるサクラ5地点と合わせて計51地点を調査した結果、新たな被害は確認されなかった。

今後も、管内市町やJAに対する啓発チラシ配布により注意喚起を徹底し、併せて寄せられた通報に迅速に対応することで、クビアカツヤカミキリの防除啓発に努めていく。

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～「南高」摘心+カットバック処理樹のせん定講習会を開催～

11月13日、農業水産振興課は御坊市及び日高川町のうめ生産者を対象に、「南高」摘心カットバック処理樹のせん定講習会を日高川町の園地で開催し、13名の農業者の参加があった。

講習会では、綱木普及指導員がマニュアルに基づいて増収効果及び省力効果について説明した後、複数年摘心処理を行った場合では、結果層の切り戻し及び間引きせん定が重要であることを説明しながらせん定作業の実演指導を行った。

参加者からは「増収効果を期待して摘心栽培の導入を検討したい」、「結果枝の間引き程度が分かった」といった声が寄せられた。

今後も当課はJAわかやま紀州地域本部、うめ研究所等と連携し、うめ「南高」の摘心処理にカットバックを組み合わせた青梅生産性向上技術の普及に取り組んでいく。



せん定作業の様子

2. 日高地方農業士会が地域リーダー研修会を開催

11月5日、日高地方農業士会（会長：月向雅彦氏）が、地域リーダーとしての資質向上を図るとともに、会員相互の親睦と連携を強化するため研修会を開催し、19名が出席した。

滋賀県湖南市にあるタキイ種苗株式会社の研究農場を訪れ、70haにも及ぶ広大な農場で10年後を見据えた育種を行っていることや、耐病性や高温耐性の品種育成に力を入れていることを学んだ。

参加者からは、すいかの耐病性品種の育成の要望やなすの単為結果性品種の栽培特性について質問があった。

また、昼食の時間を交流会として活用したことで、滋賀の食材を堪能でき、親睦も深めることができた。



担当者から説明を熱心に聞く参加者

3. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催

11月6日、地域農業士の坂田寛樹氏のゆら早生園地で、日高川町立川辺西小学校4年生33名を対象に、みかんの出前授業を行った。

最初に、農業水産振興課の綱木普及指導員から和歌山県のみかんの収穫量や種類、美味しいみかんの見分け方について紙芝居形式で説明をした後、坂田氏指導のもと収穫体験を行うとともに、児童が1人1個選んだみかんの糖度測定と試食を行った。

児童からは「美味しいみかんを見分けて収穫できた」、「収穫したみかんの糖度が分かって楽しかった」等の声が聞かれ、収穫の喜びを児童らに体験してもらうことができた。

当課では、今後も本県農業への理解を深めてもらうために、温州みかんの収穫体験を実施していく予定である。



坂田氏によるみかん収穫方法の説明



収穫したみかんの糖度測定を行う児童

4. 日高地方農業士会女性部会が「現地研修会 in 由良町」を開催

11月7日、日高地方農業士会女性部会（会長：中村秀美氏）は、日高地方の農業や地域の取組の状況について学び情報交換をすることを目的に、由良町内で現地研修会を開催し、13名が出席した。

まず、ゆら早生現地ほ場において、ジベレリン散布による隔年結果是正や省力化の取組について、農業水産振興課の柏木普及指導員から説明を受けた。その後、和洋食堂「しらしょう」（旧白崎小学校）に移動し、アカモクやしらす、お造りなど、由良の食材を活かしたランチを楽しんだ。続いて、旧白崎小学校の教室に移動し、由良町農業士会の城台泰裕会長と山下敦之氏を講師に迎え、町内小中学校やこども園での「ゆら早生」の配布事業やにんにくPRの取組、新規就農者支援など、由良町農業士会の取組について説明いただき、意見交換を行った。

また、女性部会の片山綾子氏から、8年前に参加した

「女性農業リーダー育成塾」（農林水産省関係事業）で学んだことについての情報提供があった。次に、大引漁港から漁船による「白崎クルーズ」を体験し、海側から見る迫力満点の白崎海岸を堪能した。

様々な由良町の魅力を感じられる研修会となり、学びとともに親睦を深めることができた。



ゆら早生ほ場でのジベレリン処理の説明



由良町農業士会の取組説明と意見交換の様子

VI 西牟婁振興局

重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

1-1. ～摘心+カットバック処理樹のせん定講習会の開催～

11月10日、農業水産振興課はうめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理樹（以下、実証樹）に対するせん定講習会を上富田町岡の実証園にて開催し、生産者30名とJAわかやま紀南地域本部営農指導員3名、農業水産振興課職員3名が参加した。

講習会では当課より、これまで実施した処理の経過と実証結果（春季並びに夏季摘心の処理に要した時間、収量）について説明した後、実証樹のせん定を実演した。ポイントとして、摘心処理を開始して3年程度経過すると結果枝が込み合って小玉果となる恐れがあるため、青梅収穫で大玉果生産するためには、結果層の間引きや切下げが必要であることを説明した。

また、今年度は、参加者に徒長枝の発生程度を確認してもらうため、実証樹の隣に慣行樹を設定し、JA営農指導員の協力を得て両樹のせん定を行い、せん定枝量を計測した。慣行樹が約30kgに対して実証樹では5kg程度であり、参加者が摘心処理を行うことで、せん定枝量が1/6程度の極少量であることを確認してもらった。

参加者からは「摘心処理すると収量の増加とともに、徒長枝の発生がかなり減少するため、せん定枝を拾って処理する手間が少なく、大幅な省力化につながりそうだ。導入に向け検討したい」との感想があった。

今後とも実証園の活用により技術普及に努めるとともに、生産安定・省力化につながる摘心+カットバック処理技術の導入を推進していく。



慣行樹のせん定実演の様子



摘心樹のせん定実演の様子

1－2．～カットバック処理請負グループ活動を支援～

省力・安定生産につながる「摘心＋カットバック栽培」の現地普及を加速化させるため、カットバック処理する請負グループの育成が課題となっている。この度、作業を請負う組織の育成を図るため、農業水産振興課はＪＡわかやま上富田青年部員（以下青年部員）と連携しモデルケースとして、11月14日に上富田町岡の園地で研修を実施した。

当日は、青年部員10名の他、ＪＡわかやま紀南地域本部営農指導員（以下ＪＡ営農指導員）2名、農業水産振興課職員3名が参加して「南高」17年生の摘心処理樹を40樹を樹高2.5m程度の位置で主枝のカットバック処理を行った。

はじめに、当課より、県うめ研究所作成の摘心カットバック栽培マニュアルを用いて説明後、ＪＡ営農指導員によるカットバック処理の実演により、互いに処理位置等を協議した後に作業を開始した。

処理のため使用した機器は、青年部員持ち寄りの高枝電動チェーンソー4機と高さの目安を定める箱尺を使用し、2～3名の班に分かれ4班で作業を行った。

40樹の処理に要した時間は、全体で約30分間。2～3人でチームを組み、カットバック処理する樹高の位置を決めたり、処理作業を分担して行うことで、比較的スムーズに作業を進めることができた。また、高枝電動チェーンソーの使用は、脚立に登ることなく作業ができるため比較的安全性が高く、効率的であった。

カットバック作業終了後は、摘心処理樹のせん定技術習得に向け、互いに意見交換をしながらせん定作業を実施した。

今後とも当課では、今回のモデルケースを元に他の請負グループの育成を図るとともに、請負グループ員のカットバック処理及び摘心樹のせん定技術を高める支援を行っていく。



カットバック処理時の樹高の打合せ



カットバック処理作業の様子

2. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

11月5日、秋津野ガルテンにて、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）はリーダー研修会を開催した。役員と会員合わせて30名が出席し、フルーツタルトづくりと情報交換会を行った。

フルーツタルトづくりでは、みかんとシャインマスカット、フィンガーライムを用い、お菓子体験工房『バレンシア畑』の店長・パティシエである出島明美氏から作り方の指導を受けた。同店では、今年、田辺市からの打診を受け、ふるさと納税返礼品としてひょう被害を受けたうめを使ったスイーツを制作したことについて紹介された。会員にはうめ生産者が多く、高い関心を寄せていた。

情報交換会では、7団体から最近の取組報告があり、野菜農家による栽培研修会の実施や、地元中学校の生徒にジビエと地元農作物を使った調理実習を毎年実施していることなどの紹介があった。参加者からは「高齢化が進むなど、活動が厳しい状況ではあるが、他団体の活動状況を知り、参考にして活動していきたい」などの意見があった。



フルーツタルトづくり

3. 女性農業者セミナーの開催

11月13日、農業水産振興課はうめ研究所にて、管内女性農業者を対象とした女性農業者セミナーを開催し、西牟婁地方農業士会女性部会と西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会より11名が参加した。

うめ栽培におけるスマート農業技術やドローン飛行の法律・ルールの基本について、始めに株式会社未来図より液剤と肥料のドローン飛行散布の実演があり、その後県内農業におけるドローン利用状況及びドローン飛行の仕組みと法律に関する講演があった。次に、うめ研究所井沼主任研究員及び向日研究員より、うめにおける農薬と肥料のドローン飛行散布の研究成果について説明があった。

最後に株式会社ユニワールド商品企画部より農作業用品の紹介や意見交換が行われた。参加者は販売されている手袋やヤッケ、農作業用エプロンなどを手に取りながら、使いやすさや、あったらいいなと思う商品について、担当者と意見交換をおこなっていた。

参加者の中には、ドローン防除のデモ飛行依頼を検討したいという声や、農作業用品については「普段から愛用している商品であり、担当者と話せる機会があって有意義だった」という感想が聞かれた。



農作業用品の紹介・意見交換

Ⅶ 東牟婁振興局

1. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる、もも、うめ、さくらなどバラ科植物への被害が紀北及び紀中で確認されている。当地域への侵入、被害の拡大を防ぐためには、早期の発見と駆除が重要である。

当課の橘普及指導員と濱端技師が、11月27日、12月2日、12月3日にクビアカツヤカミキリの発生状況を調査した。20地点の圃場のうめ、公園のさくら計790本において株元やその周辺にクビアカツヤカミキリの成虫やフラスが無いかを目視により確認した。

今回の調査では、成虫やフラスは確認されなかった。

今後もチラシの配布等による生産者や関係機関への注意喚起を継続していく。



調査の様子

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が即売会を開催

東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（会長：安田裕志氏、以下4Hクラブ）では、クラブ員がそれぞれ生産物や加工品を持ち寄り、例年農産物即売会を開催している。

11月29日、4Hクラブは那智勝浦町体育文化会館前で同町農産物品評会の開催に合わせた農産物即売会を開催した。

今年は残暑と害虫の多発生等により栽培が難しい状況であったが、各クラブ員は多品目の農産物を出品し、例年通り多くの人々が即売会テントを訪れ、今回も売れ行きは好調であった。

クラブ員は訪れた人と会話を楽しみながら、販売物の味や料理の際のポイント等を伝え、地域の消費者に対し地元野菜のPRを行った。



即売会の様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489